

今日の乳がん 2025. 6

◎今年も乳がん検診が始まります。乳がんは女性に最も多いがんで、年間約 10 万人が発見され（女性の 9 人に 1 人の割合）、1 万 5 千人が乳がんで死亡しています。40 歳代後半から 50 歳代前半に罹患のピークがあり、その後 65 歳を過ぎるとまた増えていきます。

◎乳がんの診断は、画像診断として、マンモグラフィー、トモシンセシス（レントゲン断層撮影）、超音波診断（US）、造影 MRI 等がありますが、これらの検査だけでは診断の確定はできません。

◎診断は細胞診や組織診で確定されます。細胞診は超音波で画像を見ながら目的部位に細い注射針を刺入し細胞を吸引して標本とします。組織診は、以前は局所麻酔下に小切開して肉片を摘出していましたが、現在は局所麻酔下に各種方法で画像を見ながらやや太い針を刺入し肉片を採取しています（針生検）。細胞診では良性、悪性を判別し、針生検ではがんの確定診断、がんの種類などが確定できます。

◎乳がんは、治療法を決めるうえで各種の分類がなされます。がんの進行程度では、早期の 0、Ⅰ期から他部位への転移のあるⅣ期に分かれます。転移の可能性のあるなしでは、可能性のある浸潤がん（80～90%）、可能性のない非浸潤がん（10～20%）に分類されます。

◎また、乳がんが何によって増殖するかを分類したものをサブタイプと呼びます。乳がん細胞の性質を示す①ホルモン受容体陽性（女性ホルモンに支配されているがん）、②HER2 たんぱく陽性（HER2 たんぱくにより増殖するがん）、③Ki-67 検査値（がん細胞の核に存在し値が高いほど悪性）の組み合わせによってサブタイプに分類し、サブタイプに応じて個々の患者さんにとって適切な治療法を選択するのです。

◎乳がん治療は手術的に病巣を取り除くのが基本です。乳房切除術、乳房温存療法（乳房部分切除術、腫瘍焼灼療法）、リンパ節摘出術（センチネル生検、郭清術）に、放射線療法、術前、術後抗がん剤治療、抗女性ホルモン療法など組み合わせて個々に適切な治療が行われます。現在分子標的療法、免疫チェックポイント阻害療法など副作用の比較的小さい治療も併用されるようになり治療効果が上がっています。

◎乳がんは早期に発見し治療すれば 90%以上は治るがんです。年齢に関係なく定期的に検診を受け早期発見、早期治療を心掛けたいものです。

